古民家だより

No. 52
令和５年（2023 年）２月２１日（火）
越谷市教育委員会　生涯学習課

もうすでに紅白梅や蝋梅が咲いて、芳香を放っています。奈良時代には「花」と言えば桜よりも梅が主だったようです。万葉集には桜よりも梅を詠んだ歌の方が圧倒的に多く収められていました。春の訪れが遠くないことを知らせてくれる花です。けれどもまだ「春は名のみの風の寒さや・・」という日も少なくありませんね。

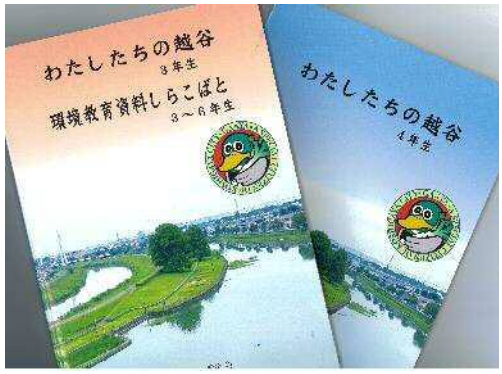
デジタル副読本の使い方

小学校では社会科の学習は３年生から始まります。３年生では主として児童が住む市町村について、４年生では都道府県について学びます。社会科の教科書には各地域の内容が記述されていないので（学び方の例は掲載）、越谷市教育委員会指導課では、小中学校の先生方から選ばれた編集委員が副読本を作成しています。その副読本では越谷市や埼玉県のことを具体的に学ぶことができます。（５年生では日本の自然や各産業について、６年生では憲法、日本の歴史などを学びます。）

この度その副読本がデジタル化されたものを用いた授業が蒲生小学校で行われ、市内の先生方と指導課、生涯学習課の職員が参観させていただきました。３年生「越谷のうつりかわり」という越谷市のまちや人の生活の変化を学ぶ単元の中で、『交通の変化』についての学習でした。児童たちは資料から変化を読み取り、鉄道路線や近年建設された国道４号線や４６３号線のバイパスを白地図に描き込んで変化を捉える作業をしました。

授業後の協議会の中で副読本の内容や授業での活用方法などの検証を行い、次のような意見が出されました。

◆紙とデジタル副読本の使い分けを今後も考えていきたい。
◆デジタル副読本の地図が年代ごとに重ねられるとよい。
◆デジタル副読本利用を効果的に行うことは勿論だが、児童の手で作図することも意義あること。
◆地域の変化の学習で、“発展”とは何をもってそう捉えるのかを、授業者が予め踏まえておくことが大切。



生涯学習課では市史史料（文書、絵図、写真等）のデジタル化を始めており、学校でも利用できるコンテンツの準備を進めています。

先々が楽しみ！　小学生の“気づき”

今年度は数年ぶりに小学生の社会科見学が増えました。年が明けてからは北越谷小学校３年生が大間野町旧中村家住宅に来館しました。時間に少し余裕があり、見学･体験後にシェアリングの時間を持つことができましたが、その中で児童の印象的だったのが次の言葉です。

★昔は自然のものを多く使っていたんだと思いました。

「自然のもの」というのは植物、粘土、石のことです。現代住宅は鉄筋やコンクリート、合板、プラスチックなどが多く使われていますので、木材がむき出しの状態で組み上げられ、土間の三和土（たたき）や土蔵の壁、瓦には粘土が用いられていることをこのように表現したのでしょう。他の小学校からの感想文にも同様のものが見られます。

この“気づき”はとても大切なものです。それはわが国が四季の区別が明瞭で豊かな動植物に恵まれてきたことと、先人たちがそのことを受け止めて様々に生活の中に取り入れてきたこと、そしてそれらを伝承してきたこととその社会の理解に繋がるからです。いわゆる古民家には多くの種類の木材が用いられています。建物の力が非常にかかる部分には松、大黒柱にはケヤキ、天井には杉やヒノキ。そしてその加工の仕方もその部分に応じています。建物だけでなく天秤棒や農具、大八車などもその大部分は木材です。また障子紙やロウソクの原料も植物由来です。稲は捨てるところがありませんでした。自然の循環を利用した（そうせざるを得ない）生活でした。児童たちの“気づき”は、やがてこのことにも考えが及んでいくことになるでしょう。社会科見学では、このような言葉に沢山出合うことができます。

近代教育150年

展示を計画しています

左の写真はかつての教科書です。今の市役所近くに在った越ヶ谷学校の生徒が使ったものです。いつ頃の、何歳の子ども対象の教科書と思われますか？　本文には「凡（おお）そ（おおむね）地球上の人種は五つに分かれていて、亜細亜（アジア）人種、欧羅巴（ヨーロッパ）人種、馬来（マライ）人種、亜米利加（アメリカ）人種、亜弗利加（アフリカ）人種である」と書かれてあります。

明治５年（1872 年）、わが国で近代教育の制度「学制」が頒布され、翌年には市域でも越ヶ谷学校や船渡学校、進文学校など２０余りの学校が設立されました。それらは何度か統廃合を経て現代の越谷市立小学校になっています。中でも８つの小学校は開校から 150 年になります。そこで「市内小学校開校 150 周年記念展示」を計画しました。その**【第一部　近代学校の誕生】**を **３月 10 日(金)～28 日(火)**にレイクタウンの**旧東方村中村家住宅**で開催します。市域に残る史料を用いて越谷から見た近代教育の姿をご紹介しながら、現代や将来の世の中について考えてみたいと企画しました。左の教科書は明治７年（1874 年）発行、下等小学（６～９歳児）で初めて習う「小学読本　巻一」の最初のページです。この頃の教育が目指したことも、展示でご紹介します。

そして**【第二部　終戦前後の変革】**では第二次世界大戦末期～終戦後の学校の様子を、市内諸学校の史料を中心にご紹介します。（8 月頃予定）さらに**【第三部　近代学校の夜明け前】**では第一部の明治期の学校が市域にたくさん設立された背景＝江戸期末期の寺子屋の様子をご紹介します。（11 月頃予定）開催時期や場所は広報でお知らせする予定です。